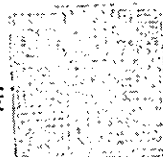


備 都 第 613 号

平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 殿

備前市長 西岡 憲 康



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成 20 年 9 月 19 日付け、国道企第 37 号で依頼のあった標記のことについて
別添のとおり回答いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡山県 備前市

・地方の市町村においては、道路整備に対する市民の要望は非常に強く、多い、そのような中、平成 21 年度より道路特定財源制度が廃止され一般財源化される見通しとなっている。また、暫定税率についても、税制抜本改革時に検討されることとなっているが、現行の道路特定財源制度が一般財源化され、仮に暫定税率の見直しもされることとなると、都市部に比べ大きく遅れている地方の道路整備のための財源が確保できるか非常に不透明であり、不安である。そのため、今後とも地方財政、道路整備予算確保に十分配慮して頂きたい。

・揮発油税を原資とする「地方道路整備臨時交付金事業」は、地方にとっては非常に利用しやすく、道路整備を推進する上でも重要な制度であるため、税制改正、一般財源化が行われても堅持していただきたい。

・地方の市町村は、限られた予算の中市民の要望に答えるべく道路整備に努めている。しかしながら、国においては報道等を見る限り、非常に無駄な支出(特定の法人への高率での随意契約等)が多いものと思われる。地方へは、透明性の高い入札制度を推し進めながら一方ではいまだ不透明な支出が多いものと予想される。基本方針にあるとおり無駄な支出を排除するよう努力していただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

岡山県 備前市

○現状

・本市の道路網は、山陽自動車をはじめ市内を東西に縦断している大動脈の国道2号を軸とし、幹線道路である国道250号、374号及び主要地方道、一般県道により骨格が形成され、これを補う市道は、補助幹線道路、一般生活道路により一応のネットワーク化は形成されているものの、現在の車社会では、多くの道路で交通渋滞、交通事故、排気ガスによる交通公害が発生する等何らかの形で弊害がもたらされている。また、幹線道路の多くが通学路等になっているが歩道の整備も進んでいない道路が多いため、多くの児童が毎日非常に危険な状況の中通学している。特に、国道2号は、市民の生活道路としての依存度も高いが、朝夕の通勤時間帯の渋滞が著しいだけでなく、これに流入する各道路にも大きな影響を及ぼし、市民の日常生活にも支障をきたしている。

・市道は、生活道路として日常的に市民が最も多く利用し、また、非常時や災害時には、命の道路として重要な役割を持っているにもかかわらず、多くの道路では幅員が狭く、車両の交互通行もできず、高規格救急車や消防車が立ち往生してしまうような地域もあり現在の社会情勢に十分対応しえていない。

○課題

・誰もが安全・安心して快適な生活が遅れるような、幹線道路の改良、交通安全施設、交差点改良等の整備が急がれている。

・「非常時・災害時の安心」、「車両通行の安全」の道づくり、また、合併に伴う生活圏の広域化、産業振興への対応を図るための道づくり、市民生活の交通利便と安全を確保するための道づくり等を補助事業の活用等、長期計画に基づいた整備を早急に進める必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

岡山県 備前市

1. 安全で快適に暮らせるまちづくり

都市基盤の整備、定住、交流基盤の充実を図り、県南東部の拠点都市として、安全で快適な魅力あるまちづくりを進める。

①生活しやすいまちづくり

市民生活や産業活動に最も密接な関係にある道路等の計画的な整備に努める。日生本土と離島を結ぶ架橋事業については、地域の活性化と島民の生活の安定を図るため早期完成を目指す。

②安全で安心して暮らせるまちづくり

非常時や災害時に救急車や消防車等が安全安心に通行できるみちづくりを推進していくとともに、歩行者等が安全に通行できる交通安全施設の整備を推進する。

③災害に強いまちづくり

台風等の豪雨や、地震・高潮による災害から生命・財産を守るため避難路等の整備を推進する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

岡山県 備前市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
都市交通の快適性、利便性の向上	市道日生頭島線	当路線は、本土と定期船で結ばれている離島を連絡する架橋計画を含む幹線市道である。当路線整備は、交通常時性確保による医療・通勤・通学の利便性向上、さらに、観光客の利便性の向上が図れ、離島という地理的制約の解消が図れると伴に新備前市のまちづくりの核となる観光、産業の振興が図れる。 B/C 3.7	
総合的な安全対策及び危機管理の強化	市道 A-2、A-37 号線 伊部畠田線	当路線は、地区内の重要な生活道路でありながら、幅員が 3.0m 未満で車両の交互通行もできず、非常時には救急車が立ち往生してしまうような状態であり、本路線の整備を行うことにより、救急車が乗り入れでき、車両の交互通行が行える「急患時の安心」、「車両通行の安全」のまちづくりが図れる。 B/C 1.2 当路線は、市内を縦断する大動脈の国道 2 号と平行して走っている路線であり、非常時には国道 2 号の迂回路また、近接している地区の避難路ともなる重要な路線であるが、幅員が狭小なため交互通行ができない箇所も多く、また常時は通学路として利用している児童が非常に危険な目にさらされている。本路線の整備により安全・安心のまちづくりが図れる。 B/C 3.1	
地域活力の向上	A-124 号線	本路線の整備により、本市の基幹産業である耐火煉瓦製造工場などへの大型車両の進入が容易となり産業の活性化、振興が図れる。 B/C 2.0	